平成３０年度第７回社会教育委員の会議

平成３１年１月２８日（月）

午 前 ９ 時 ３ ０ 分 開 会

開催日時	平成３１年１月２８日	開会　９時３０分 閉会１１時２２分	
場　　所	小金井市役所第二庁舎８階８０１会議室		
出席委員	議　　長　　小山田佳代 副　議　長　　原田　隆司 委　　員　　首藤　由憲 委　　員　　石田　靜子	委　　員　　城　　瑞枝 委　　員　　長坂　　寛 委　　員　　福井　髙雄	
説明のため出席した者の職氏　　名	生涯学習課長　　関　　次郎	図書館長　　菊池　幸子 公民館長　　西村　直邦	
事務局	生涯学習係長　　小堀久美子 生涯学習係　　佐藤　優子		
傍聴者人　数	１名		

日程	議　　題	
第１	協　議　事　項	（１）　会議録の承認について （２）　小金井市の地域学校協働活動について （３）　その他
第２	報　告　事　項	（１）　第４９回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会について （２）　平成３０年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第５ブロック研修会について （３）　平成３０年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について （４）　その他

小山田議長　　では、皆様、お時間になりましたので、始めたいと思います。

おはようございます。

第７回の社会教育委員の会議を始めたいと思います。

まず先日、成人式に参加された委員の皆さん、お疲れさまでした。城さんのお花のほうもお疲れさまでございました。

それでは、今日の会議を始めたいと思いますが、まず配付資料の確認を、事務局のほうからお願いいたします。

小堀生涯学習係長　始めに、本日、事務局側の生涯学習部長とスポーツ振興担当の内田課長が議会の関係で欠席となります。申しわけありません。

本日配付したものですが、まず次第と、社会教育委員の会議会議録（平成３０年度第５回）、放課後子ども教室の見学のまとめ、資料１。小金井市立東小学校学校支援地域本部事業について、資料２。学校ボランティアの活動状況（平成２９年度実績）、資料３。小金井市地域学校協働活動の提言案、資料４。第４９回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会報告書、資料５。平成３０年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第５ブロック研修会報告書。平成３０年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会報告書、資料７。

それから、委員の方だけにお配りしているものですけれども、社連協会報ナンバー８３。武蔵野市社会教育委員だより。とうきょうの地域教育ナンバー１３３、１３４。小金井市図書館平成２９年度版。図書館だより第４９号。小金井月刊こうみんかんナンバー４８７から４９０。青少健だより第６２号。体協だより。創立７０周年記念誌公益財団法人小金井市体育協会。

以上です。

第５回から間があいて、第６回が３者合同会議だったために、だいぶ前の資料も入っております。よろしくお願いします。

小山田議長　　ありがとうございました。皆さん、資料はございますでしょうか。

今日の議題は、会議録の承認についてと、小金井市の地域学校協働活動について、その他ということでございまして、まず最初の会議録の承認について、資料がございます。

メールでも事前に送られてきたと思いますが、修正等、何かご意見等ございますでしょうか。

特になければ、この議事録のほうはこれで承認されたということにいたします。お願いします。

では続きまして、今日のメーンの議題になります。小金井市の地域学校協働活動についてということで、今年に入りまして、小委員会で、今日のために幾つか資料を用意し、話し合いをしてまいりました。

今期の最後に提言というか、まとめみたいなことで何か形に残そうという方向のもとで、話し合いを小委員会で行いまして、資料の１、２、３、４までになりますが、資料の説明をしながら、小委員会での話を皆様にご報告したいと思います。

まず資料１ですが、昨年末に放課後子ども教室の見学に各自、委員の方に行っていただいて、行っていただいた委員の方が放課後子ども教室の見学についてまとめをしてくださいましたので、原田さん、こちらのご説明をよろしいでしょうか。

原田副議長　はい、わかりました。

それでは、資料１をごらんください。１１月２１日に、城さん、首藤さん、私と、あと生涯学習課の小堀さんと４人で３つの学校を見学してまいりました。首藤さんには車も出していただきまして、ありがとうございます。

事前に小堀さんのほうから、各コーディネーターにアポイントを取っていただきまして、それぞれの学校を、コーディネーターさんから詳しく話を聞きながら、現場の見学をすることができました。

ここにまとめましたのは、あくまでも私の感想ですので、後で城さん、首藤さんから何かあると思いますので、つけ加えていただきたいと思います。

見学したのは本町小、第二小、緑小の３つということですが、９つの小学校全てやっていまして、特に熱心なところを選んだわけじゃなくて、たまたま３人が行ける日にやっているということでこの３つになりましたが、いずれも非常にコーディネーターさんが熱心にやっているという現場でありました。

まず本町小学校は、５００人ぐらいの全校生徒がいるんですが、そのうちの１００人が登録をしていて、放課後子ども教室を利用しているということで、校庭で遊んだり、図書室で遊んだり、英語を習ったり工作をしたりとか、さまざまなものがありました。

ここでの特徴は、学芸大の学生さんのサークルですね。児童・生徒支援連携センターと連携をしていまして、現役の大学生がこの放課後子ども教室に参加して、子どもたちの学習の支援をしているということでありました。学芸大では、小金井市と、それから品川区でもこういう活動をしているそうでありますが、もともとは子どもの貧困の解決というのが目的で、勉強したくても家が貧しくて十分に学習ができないという子どもたちを支援しようということなんだそうです。地元に学芸大学があるという小金井市の特徴をうまく使った活動だなという感想を持ちました。

二小については、ここは登録数が多くて、５００人中３００人の子どもたちが登録しているそうであります。この日は工作です。ペーパークラフト、ギフトボックスをつくろうということで、ここの特徴は指導をしているアドバイザーが、６０代、７０代位の男性でありましたけれども、学芸大と市の連携講座で子どもパートナーという資格を取りまして、それでアドバイザーをやっているということでした。そういう講座を受けて子どもたちへのアドバイザーの活動を学んだ上で参加しているというところが、なるほどこれはいい方法だなと思いました。ちなみに、この日のアドバイザーの伊藤さんは、我々の、学芸大での科学の祭典のときの工作を指導している方であります。

それから、３つ目の緑小は、回数は月に１０回程度やっているということで、内容も、そこにありますように手芸、スポーツ、英語、落語、生け花の、非常に幅広い、ちょっと大人のカルチャーセンター並みの内容をやっているなという感じがいたしました。土曜日には、おやじの会というのがありまして、現役のＰＴＡの若いお父さん方と交流をするという活動もしている。我々が今まで見学した中で、おやじの会のようなものが幾つかあったんですが、大体高齢の、リタイアしたお父さんというか、おじいさんとの交流というのは多かったんですが、ここでは現役の若いお父さんとの交流だったということであります。

ここのもう一つの特徴は、活動の幅が大変広いので、指導者も外部から受け入れているということで、英語の指導をしている方は、その指導者からの提案に基づいて企画をしてやっているということだそうであります。

以上のような学校を見まして、共通しているのは、コーディネー

ターの方が非常に熱意があって力量があるということですが、それぞれたった１人でやっていらっしゃるということなので、風邪を引いて倒れられたらどうするんだろうということが心配になりました。コーディネーターの業務は大変多岐にわたっているので、複数いたほうがいいのかなという感想を持ちました。市に伺いましたら、来年度から２人まで置けるような体制になるということであります。

それから、学校の先生の負担が全くないようにという工夫がされていまして、学校側は場所を貸すだけということで、役割がはっきりしているというふうに見受けました。

それから、９つの学校のコーディネーターがそれぞれ独自のやり方でやっているんですが、情報交換をやっておりまして、月１回の会議があるということで、こういうアドバイザーの方がいるよとか、こういう活動をしたら子どもたちが喜んだよというような情報交換は非常に綿密にやっているように見受けました。

いずれにしても、どちらの学校もこういうことを継続して活発にやっていくためには、コーディネーター、それから子どもに対応するアドバイザーの方、それから安全管理をするスタッフの方、こういう人材の確保と組織づくりが非常に大切だなというふうに思いましたので、今後これを継続、充実させ、それから我々の今検討している地域学校協働活動につなげていくためには、こういう組織化、人材の育成というようなところにやはり目配りをしたほうがいいのかなというふうに思いました。

以上です。

小山田議長　原田さん、ありがとうございました。

今、追加で、首藤さんからの放課後子ども教室視察報告というのがお手元に渡ったと思うんですが、原田さんの報告に何か追加ということで、首藤さんのほうはよろしいですか。

首藤委員　原田さんの報告書とほぼ同じ内容になっていると思います。最後のページに自分の感想というふうに書いていますが、その中では、やはりコーディネーターさんの力量に頼るところがちょっと大きいかなと、逆に言えば大き過ぎるかなというふうに感じております。コーディネーターさんは一生懸命おやりになっているんですが、実

は長くおやりになっている方が多い感じでした。そうすると、次の世代のコーディネーターさんをどう育成していくのかというところについては、やはり課題になるのかなというふうに思いましたのと、もう一つは、長くやるということは、いいところはいっぱいあるんですが、欠点で言えば、やっぱり社会の変化とか、いろいろな環境の変化に対応しづらくなってくるということもあるのではないのかなというふうに思います。その辺をどううまく次の世代に引き継いでいくのかということも課題なのかなと思いました。

それからもう一つは、学校との距離感です。これはやはり少しずつ、それぞれの小学校について違うように感じましたけれど、基本としては学校とはある距離感を持ちながらやっていったほうがいいのではないかと。むしろ外から環境をつくっていって、学校とつないでいくというふうな方向のほうが、何となくですが、いい方向に行くのではないかなというふうに感じました。

それから、後で長野のときの話にも出てくるんですが、行政との調整会議というのをおやりになっているということなんですが、どうしてもやっぱり調整役に行政の側はなってしまうのかなということで、もっと大きな観点で、例えばテーマを、ある方向づけみたいなものを提案することによって、それぞれの学校の方向性みたいなものを統一させるということが必要かなというふうに思います。調整だけをやっていると、どうしても問題解決のような感じになってしまいますので、そうじゃなくて、ある方向性に引っ張っていくというふうな体制をつくることが今後大事なのかなと。

そのためには、やはり行政の中に教育の専門家というか、それ専門におやりになっているというふうなセクション、あるいは人材をつくっていくということもすごく大事なことだなと思います。これは後で長野の事例のときに少しお話ししますけれど、そういう検討も必要かなというふうに感じました。

以上です。

小山田議長　　ありがとうございました。では、一緒に行かれた城さん、補足やご感想がありますでしょうか。

城委員　　特にはないんですけれども、まず１番に本町小学校に伺ったときに、東京学芸大の生徒が教えているというのがすごく、一般的な親

としてうらやましいなと思いました。それがそこだけではなく、せっかく東京学芸大があるんだったら、ほかの小学校にも同じようなものがあればいいなと、すごく感じました。普通の、一般的な親として、それを一番に感じました。

コーディネーターさんがすごく熱心なんですけれども、ほんとうにコーディネーターさんに頼っているという感じで、周りも一緒にやろうという感じではなくて、コーディネーターさんに引っ張られていっているという感じがあるので、もう少し一緒にやれる範囲をしないと、ほんとうにコーディネーターさんが風邪を引かれたり、倒れたりしたら、そういう部分がなくなってしまうのではないかなというのを感じました。

工作もすごくいいなと思ったんですけれども、本町小学校のを１番に見たので、これを小金井の小学校全部にするほうがいいんじゃないのと、１つの小学校だけではちょっと不公平じゃないのかと一番に感じたんですね。あとの件については、もうお二人が詳しく書いていらっしゃるので、そのとおりだなと思ったんですけれども、その２点がすごい気になりました。

小山田議長　　ありがとうございました。本町小が一番、学芸大に近いというのがあって、そこがわりとメーンになっているというのはあります。

そんなことで、放課後子ども教室を見てきていただきまして、今あったようなご意見ではあったんですけれども、行かれていない方で、行った方に質問とかありますか。

じゃあ福井さん、お願いします。

福井委員　　各小学校の放課後子ども教室の指導をしている時間帯というのが、何時から何時ぐらいまで指導されているかというのと、あと、このプログラムの放課後子ども教室に参加される親御さんに対してのスケジュール表というのは１カ月前に提示されているのか、その辺の流れをお聞きしたいと思います。

小山田議長　　じゃあ原田さんに。

原田副議長　　学校によってやり方は違うと思いますが、例えば緑小だと２カ月前にカリキュラムを保護者に配ると。それでどこに参加するかとい

うのがわかるようになっている。それから、保護者が、今日は子どもが放課後子ども教室へ行っているとわからなければいけませんので、必ず親に連絡をしてくるというふうにしているようでしたね。それから、共通の登録の紙がありますので、うちの子は放課後子ども教室に登録しているというのは保護者もわかっているということだそうです。

それから、時間は、終了時間がたしか４時半でそろっていまして、冬でも明るいうちに帰れるということでしたね。始まる時間は、学年によって授業の終わる時間がまちまちなので、一般的には全体がそろうのは無理だけど、我々が行ったときには１時からやっていましたね。あれは、小堀さん、どういう仕掛けになっているんですか。始まる時間については。

小堀生涯学習係長　学校によっても違いがあるんですけれども、準備から片づけまで、いわゆる実施時間だけじゃなくて、スタッフの方がかかわる時間がおおむね３時間ぐらいなので、その中の時間で放課後子ども教室を行っています。先ほど原田委員も言われたように、材料を揃える必要がある教室などは、事前申し込み制という感じですけれども、例えば前原小のように校庭開放をメーンにしているようなところというのは、１回放課後子ども教室の登録をしておけば、その時間帯に自由に遊びにきてという形をとっているので、申し込み制のところもあるし、申し込み制ではないところもあります。また、先ほどチラシの配布のこともお伝えいただきましたが、申し込み制のところは必ず書類に、保護者の方が、申込書等を書いて出していただきますが、それ以外のところは、日程表みたいなものを見ながらお子さんたちが自由に参加することができたりと、ほんとうに学校によってやり方はさまざまになっております。終わりの時間はある程度決まっているところも多いですけど、学校とか、学校に置かれている組織によってばらけていたりはするんですが、おおむね１時間半から２時間ぐらいの実施時間になっております。

以上です。

小山田議長　ありがとうございます。福井さん、どうですか。

福井委員　はい。

小山田議長　　ということでございまして、放課後子ども教室に見学に行っていただいたりしたのは、その先の地域学校協働本部をつくるに当たって、何か放課後が核になるのかなということもあって、ちょっと見にいっていただいたりしたんですが、その点においては、ここもちょっと小委員会で話は出たんですけれども、放課後の方々はそれで大変忙しそうな感じがするということで、この後の話もあるので、放課後のコーディネーターさんに、さらに地域学校協働本部のほうもとなると、それはそれでまたきっとかなり負担感が出てくることになるのかなということは小委員会でもちょっと話が出ておりまして、またその後の話は後ほどしたいと思うので、放課後のほうも、コーディネーターさん１人に頼り過ぎてしまっている部分と、ほんとうに次の世代の育成と引き継ぎということが課題であるということと、あとは、それぞれの特性があっていいんですけれども、大学生がせっかく教えているんだったら全部にということもあるということで、そういったご意見があったということで、ひとまず子ども教室のまとめは終わりたいと思います。

続きまして資料２のほうですが、資料３も一緒に見ていただければと思います。こちらのほうは小金井市の学校支援地域本部事業についてということで、今、実際、小金井市ではどんな状況なんだろうということで事務局に相談して、わかる範囲で調べていただきたいということでこの資料３が出てきたんですが、その前に、実は学校支援の地域本部事業というのをモデル校でやっていたことがあるというお話がありまして、それについて資料２を小堀さんのほうでまとめていただいたので、資料２について、資料３とあわせてお願いいたします。

小堀生涯学習係長　まず資料２からになりますが、小金井市立東小学校学校支援地域本部事業についてということで、こちらの東小学校で学校支援地域本部事業のコーディネーターをされているという方がいらっしゃって、その方に資料と、あとお話を伺って、作成したものです。

１番の立ち上げの経緯ということで、小金井市としては平成２５年度から、モデル校２校、一小と緑中で学校協働支援本部事業が実施されて、翌年度以降は市内全域でも実施しましょうという話が出たそうなんですけど、東小において学校支援活動の実施をしますと

いうことが話し合われて、準備が進められたそうです。

まず最初に、コーディネーターの選任、ボランティアの選任、あと事業の説明を受け、校長、副校長、各先生とスタッフの方が話し合いをして、平成２６年度から東小学校ではスタートしました。

以降、全部東小学校でやっている経過ですけれども、２番、学校支援地域本部事業についてということで、当時の校長、副校長からの説明の概要となりますが、子どもを育てるのは学校だけではなく、家庭と地域の協力が不可欠であり、学校の中にあるたくさんの仕事の中には、教員がしなくてはならない仕事と、教員でなくてもできる仕事がある。教員ではなくてもできる仕事を地域の方に担っていただくことで、教員が子どもに向き合う時間を確保できるようになるため、力をかしてほしい。地域にはたくさんの人材があるので、学校に協力してもらいたい。教員はいずれ学校を離れるが、地域の皆さんは、変わることなく学校を支えてくださる。継続した支援をお願いしたい。

この話を聞いて、コーディネーターの方は、地域の子どもは地域で育てる、地域の学校を地域で盛り上げる、地域の人の輪を広げることが、この事業を通じて実現できるのではないかと感じたそうです。

３番、ボランティアについて。まずボランティアの募集については、コーディネーターさんが関係する団体やコーディネーターさんのお子さんの保護者等に声かけをしたそうです。事業当初は１０から２０人の人がボランティアとして登録してくださって、その後やめられた方もいらっしゃるし、コーディネーターさんと、あとボランティアの方の声かけで、現在３０名の方が登録されているということです。このボランティアさんは、基本的には、今現在、東小学校に子どもがいない元保護者の方もいらっしゃると思うんですけど、現役の保護者の方はＰＴＡとしてやることがあるんじゃないかということで、現役の保護者の方はボランティアに入っていないそうです。

ボランティアの方の声として、ボランティアをやりませんかと声をかけてくれてありがとう、と感謝されることが多い、自分の居場所ができること、子どもたちと声をかけ合えることがうれしいという声を聞きますということです。

裏面に行きます。４、ボランティアの活動について。通常のボラ

ンティアにたどり着く流れですけど、まず学校からボランティアの依頼を受ける、副校長先生からコーディネーターさんに話が行きます。コーディネーターさんから登録ボランティアに協力の打診をします。少人数の場合は直接声かけをする場合もありますし、お便り、電話、メール等で協力を依頼するそうです。協力が確定したら副校長先生に、誰々が協力しますということを伝えるそうです。

ボランティア活動の内容、これは平成２９年度の実績ですけれども、下校の見守りとか給食の見守りとか、あとは家庭科の支援とかということで、最後、２月から３月に家庭科「感謝の会」３回とあるんですけれども、家庭科の授業の単元の中に、お世話になった人への感謝の気持ちをあらわすという学習内容があるそうで、その対象に、ここで活動しているスタッフの方、地域ボランティアを選んでいただいて、この３回の会に呼ばれて感謝の気持ちを児童の方からいただいているということでありました。

５番、コーディネーターさんの意見ですが、ボランティア募集のときに伝えていることは、地域の子どもたちのために協力してほしい、そして、これは小金井市で行っていること、東小学校として行っているということをボランティアさんに伝えているそうです。

事業が今円滑に進んでいる理由は、学校の校長、副校長が本事業への理解があって、また、この事業が必要であると認識して前向きに取り組んでくれているから。そして学校関係者がボランティアの方に感謝の気持ちを伝えてくれている、そしてボランティアスタッフが楽しんで参加しているからということです。

事業開始から５年目を迎えているんですけれども、経験値が増えていく中で、前年度の流れを見ながらコーディネーターが副校長に、次の行事についての声かけをすることもあるそうです。１年間の流れやボランティアの内容もわかっているので、段取りが滞りなく進められているということでした。

続けて資料３になります。小委員会でこの資料２をもとに、いろいろお話をしまして、実際、小金井では学校支援地域本部事業、前の名称ですけど、こちらが各学校でも行われているのではないかという話がありまして、市内の実態を確認してほしいということだったので、こちらは、私のほうで新しく調べたものではないんですけれども、指導室で名前としては学校ボランティアということで登録をしてもらって、各学校でボランティアの方が活動しているという

形なんですけれども、平成２９年度実績を記載しております。小学校は９つ全ての学校、そして中学校も５つの中学校全てで、このような形でボランティアの方がかかわっているということでした。

以上です。

小山田議長　　ありがとうございました。学校支援本部事業のモデル校で一小と緑中で実施していて、その後、東小も実施を進めていたと。でも結局、学校支援地域本部事業という形では、もう小金井市のほうでは進めなかったということなんでしょうか。一応、モデルだけで終わったというか。

小堀生涯学習係長　全校的に学校ボランティアという形では各学校行われていますが、学校支援地域本部事業という名称で統一的には行われていないのではないかと思います。

小山田議長　　小金井市はやっていないことになっているという感じにはなっているんですけれども、今、小堀さんの資料で、その素養はあるというか、東小の事例なんかはまさに学校支援地域本部事業をやっているというような感じにはなるんですけれども、それが仕組みとしてできていないかけであって、ほんとうにやっていらっしゃるんじゃないかなと。

コーディネーターさんは、放課後子ども教室をやっていた方がやっていらしたんですか。

小堀生涯学習係長　そうですね、こちらのコーディネーターさんは、今、放課後子ども教室のコーディネーターも兼ねてやっているそうです。

原田副議長　　あと、質問ですけど、学校ボランティアということで学習支援をやって、これは放課後とは違って、授業時間にお手伝いをするということですね、このボランティアの方は。

小堀生涯学習係長　そうですね、ほとんどの内容が、一部、登下校の見守りとかも入っていますが、基本的にここに書かれている内容は、学校の中に入って、学校教育の一環としてやられているので、放課後子ども教室とは違う位置付けになっていると思います。

原田副議長　　そこが違いますね。

それで、今、実際にコーディネーターの方が同じ人だったということですが、このボランティアも、ひょっとすると放課後子ども教室の安全管理もやっていたりという人もいるかもしれないですね。

小堀生涯学習係長　もしかしたらどちらにも参加されている方がいるかもしれないんですけど、みんながみんな同じということではなと思います。

原田副議長　　伺っていて、両方で、目的が違っているんだけど重なっている部分があるし、それから、やっている人も、もしかすると一部重なるかもしれない。それをばらばらにやるよりは、やっぱり一緒にやったほうがうまくいくのかなという感想をちょっと持ちましたけどね。

ただ、これはそれぞれが、ほんとうに別々にやっているわけですね。

小堀生涯学習係長　そうですね、コーディネーターの方は同じなんですけど、全く違う形で携わっているということで、両方やはり一緒に見るというか、コーディネートするというのはなかなか大変だということで、次の方につなげるように準備はしているということは言われていました。

原田副議長　　これ、現状は市役所の担当も、今のお話のほうは学校教育ですね。

小堀生涯学習係長　そうですね、さっきの各学校のボランティアの関係は指導室が担当しております。

原田副議長　　放課後子ども教室は生涯学習ですよね。

小堀生涯学習係長　生涯学習課で担当しています。

原田副議長　　なるほど。

小山田議長　　管轄が違っているということですね

何か御質問とか、ほかにある方いらっしゃいましたら。
福井さん、どうぞ。

福井委員　　例えば緑小学校の、支援という言葉と補助という言葉が２通りあるんですけれど、この補助というのはクラブ活動支援というような意味合いで補助されているんじゃないかと思うんですけれど、例えば緑小のクラブ活動補助というのは、スポーツ中心なのか学習関係が主なのかを確認できればと思うのと、あともう１点、第一小学校の校内支援で学校だよりの配付というところで、一小のみ学校だよりの配付というのが校内支援であるんですけれど、どういう応援を、一小のみに学校だよりが配付されているのか。ほかのほうは、学校だよりは配付されているんだったら、ボランティアを経由しないで学校のみの、先生が配付されているのか、その辺の区別がわかればお聞きしたいと思います。

小堀生涯学習係長　こちらの資料３については、私のほうで質問項目をつくって質問をして、回答をしてもらったということではないので申し訳ありませんが、ちょっとここに書かれている以上のことはわからないんですけれども、学校だよりの配付については、生徒さんの中で担当を決めて、ボランティアとして配っているという学校もあると思います。

石田委員　　石田です。学校だよりについては、緑中なんですが、私たちのボランティアのソロプチミストのクラブがちょっと支援しているんですね。そうすると、それに関することも入ってくるので、学校で出すときには必ず緑中だよりが私のもとに送られてきます。それを見ると学校の活動がすごくよくわかるんですね。そして昨年、私たちのクラブと指導室で、市制６０周年記念に音楽祭をしたときに、緑小が参加してくれたんです、合唱団が。そして、そのときの合唱団の指導をしている人が、外部から入っている人に見えたんですね。そして、とても見事な合唱だったので、それが緑小のクラブ活動補助という形になって、合唱団指導として出てきているのかなと今思っています。
それと、このボランティアにＰＴＡは入っていないんでしょうかね。ＰＴＡの活動がボランティアとして動いている部分も結構入っ

ているのではないかなと思って、今見ています。その辺はわからないんですが、車で一小の前を通るときに、一小の校門の前に花壇が、発泡スチロールでいっぱい積み上げてあって、季節の花が咲くんです。とてもきれいなんです。これは誰がやるのと聞いたときに、たしかＰＴＡでやっているのよというようなことも聞いたことがあるような気がするので、それも環境美化という中に入っているのかなと思いました。

小山田議長　　ＰＴＡが何か協力しているのも多分含まれているという。

石田委員　　含まれていますでしょうね。

原田副議長　　小堀さんのお話では、ボランティアの中に現役は入っていないと。

小堀生涯学習係長　東小学校はボランティアの方を選ぶときには現役の保護者の方は入れていなくて、卒業とかするときにお声がけをすることもあるということでした。

原田副議長　　そうか、東小の話ですね。

小山田議長　　あと何か御質問とか、ございますでしょうか。

現状、小金井市の学校のほうのボランティアというか、支援の状況も、こんな感じでということがちょっとわかったということなんですけれども、なので東小とかでやっていることは、かなり学校支援というか、ほんとうにやっているので、小金井も全く何もないということではなく、ただ、それが制度としてやはり乗っていないと。小学校によってとか学校によって、非常にむらというか、差があると、やっているところはやっているけど、やっていないところという、さっきも出ましたけれども、公平な、同じようにはやれていないという。その学校の特色というのはありますけれども、そこに通う子どもたちにとって同じような環境ではないというところもあるのかなというところが、ちょっとわかったのではないかなと思います。

それで、この間の小委員会のほうでもこの報告を受けまして、もとというのが小金井市でもあるということなので、そこをどうやっ

て持続可能で公平なシステムにしていっていただけるかというようなところを提言するよいのかなというところで。全くゼロではないので実現可能はかなりあるのではないかということと、あとは、そうなるとほんとうに人材が、コーディネーターさんとかが、東小の場合は放課後の方がやっていただいているようですが、すごくきっと大変なんじゃないかなと思いますし、放課後子ども教室自体もやはり新しいコーディネーターさんが必要になってくるということもあるので、今の放課後でベテランでやっている方が学校支援のコーディネートを見てもらって、放課後に新しいコーディネーターさんが入っていけばいいんじゃないかとか、それは小委員会での意見というか、自由な意見交換の中では出ていたんですけれども、実際の今の小金井の状況がわかったということになります。

それで、今後どういうふうにまとめていくかということで資料４、これは私のほうで一応、小項目ということで出してみたんですけれども、最終的には以前の資料みたいな形で、Ａ４で２枚とか３枚ぐらいでまとめるものなので、そんなに長文ではなく、ほんとうに必要な項目を挙げていくということになると思うんですけれども、それでちょっと考えたところで、タイトルは「実現に向けて」というのがいいのか「推進に向けて」というのがいいのかなと思ったんですけれども、あとは、ちょっと説明しますと、「はじめに」というところでは、これまで社会教育委員の会議でも、何年も前から視察を重ねてきているので、その辺のことと、あとはよく出ている小金井市らしい、小金井スタイルということで推進していくというようなこと等を盛り込み、続きましては学校協働活動の必要性ということで、社会教育法の改正や、文科省や東京都からも推進事業になっているということや、子どもたちにとって、さまざまな大人たちとかかわる体験を多く持つことが豊かな成長につながっていくというようなこと。ほかにもあると思うので、また後でご意見いただけたらと思いますが、その必要性を書き、その後、利点ということで、これがどうメリットになるのかという質問がいつも来るということですので、そこを幾つか挙げられたらとは思っておりまして、一応、私のほうでは、地域で支え合うシステムづくりということと、あとは教員の働き方改革というのが出ているので、そういった部分でも、先ほどもありましたけど、教員ではなくてもやれることというのをやれると、教員の方々の忙しいところを助けることができる

のかということと。あとはボランティアに実際携わる人たちの成人教育の場にもなるのではないかということで、これは、東小のボランティアの声というのがありましたけれども、やっぱりボランティアをやって声をかけて、道で会ったときに挨拶されたり、そういう感謝される言葉を聞くと非常にうれしいという声も上がっているということで、実際携わる人たちに向けた教育の場ともなるのではないかという。大きい項目で、それプラス何かあれば、また皆さんからも出していただけたらと思います。

その後は行政に求める役割ということで、では行政のほうで、私どもとしてはこういうことをやってもらいたいというようなことを書けたらと思うんですが、１つは地域、学校への理解。地域学校協働本部とか、そういったシステム、どういったことでというのが知られていないので、そういったことを深める勉強会。あとはその本部を立ち上げていくということと、今ちょっとお話を聞いていたら、やはりコーディネーターの育成というのもかなり必要になってくるのかなと思って、ちょっと補足で入れられたらと思います。

５番は最後にということなんですけれども、地域学校協働本部、活動を始めて、行く行くはコミュニティ・スクールを実現していければいいのではないかということで締められたらいいのかなと思っているという流れなんですけれども、今日皆さん初見でございますし、私も今日のお話を聞きながらというのがあるので、またもうちょっと加えていけたらと思うんですけれども、流れとしてはこんな感じかと思ったんですが、いかがでしょうか。

まだ全然固まっているものではないので、ご意見を自由にいただけたらと思いまして、今日自由にご意見いただいたものをまた膨らませて文章化して、小委員会を経て、次の会議のときにもうちょっと固まった内容を出せたらというような感じで考えていますので、今日は今までの放課後の話と学校支援地域本部のご報告等、小金井の小学校の状況を伺いながら、さらに皆さんのご意見をいただければと思うので、自由にご発言いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

首藤委員　いろいろな実態そのものはわかってきたんですが、議論の前提で、地域全体としてまとめて進化を求めていくのか、あるいは、今やっているように個別の進化を少し進めていくのか、そこによって随分

向かう方向性というのが違うような気がするんですね。我々が今まで言ってきた小金井スタイルをつくろうというのは、どちらかというとやはり地域そのものを少し統一化して、ある方向性を持って地域から結びつきをつけていこうよと、こういう議論なので、ほんとうにそこまで進めていくのかという意思がやはりないと、いろいろな議論をしても無駄になってしまうのかなというふうにちょっと思ったんですけどね。地域って書いてあるんですが、いろいろな文書の中には地域との結びつきとか地域と出てくるんですが、実は地域、あんまりないですよね、実態としては、こうやって見てくると。そこをどう考えるのかというのはとても大事なことだというふうに思っていますけれど。

小山田議長　　そうですね。それについてご意見ございますか。

福井委員　　今、首藤委員が言われたとおり、そのとおりだと思います。学校と地域が総がかりで取り組みましょうというのが、この活動の推進に向けた第一歩なんですけれど、基本的にはやはり一般市民も、この地域学校協働本部というところの意味合いも含めまして、周知、理解の促進というのがイロハのイだと思います。ですから、この辺も社会教育委員と並行しながら、やはり一般市民の方にもこういうことをしているよということを理解していただきながら、現状、今まで説明があった小中学校のボランティアの方にも積極的に参加していただく、プラス地域の住民の方も参加していただくということの事前の広報もしておくべきだと思います。

それと、もう少し具体化すればまとめていくと思うんですけれど、我々社会教育委員としては、任期中、今年９月８日ぐらいまでには教育長に提言書をまとめるということですから、なかなか具体的な地域の方の参加者までの細かい点まで提言書に盛り込めないと思うんですけれど、この協働本部を立ち上げるところまでは徹底してまとめて提言していかなければいけないと思います。

あと、この中で、生涯学習部及び学校教育部、あと子ども家庭支援というような、子どもつながりという横断的なところも加味していくのではないかと思いますから、市民に広報していく、地域の方にお願いするのと、あと行政自体が子どもつながりの横断的なつながりも並行して、理解して進めるべきだと思います。そうすれば、

もう少しきめ細かな住民の理解というところにつながるのではないかと思います。

あと将来的には、この協働本部が立ち上がると、市では当然、コーディネーター等の有償ということも加味してくると思いますから、こういう予算的な枠内ということも来年度以降、立ち上げいくんだったら、そういうところも加味していただかなければいけないのではないかということで、この委員会だけでなくて、行政全般及びコーディネーター中心の協力ということも必要ではないかと思いますから、お願いしたいと思います。

以上です。

小山田議長　　ありがとうございます。

石田委員　　石田です。本部を立ち上げるについて、学校のボランティアとコーディネーターの立場をはっきりするためには、資料３でいただいた指導室の資料の中で、ボランティアとかコーディネーターなのか、それともＰＴＡなのかということをちょっと整理すると、その辺が体系的に分けられるのではないかなと思うんですね。ですから学校、校長先生の校長会のアンケートみたいなもので、この環境美化とか何かやっていますが、それはＰＴＡですかコーディネーターですか、ボランティアを募集していますかということを聞くだけ、その整理をしていくだけで、ここが全部整理してくると思うんです。

昔、校長先生に伺ったときに、ボランティアとか何かで子どもたちに、私がお抹茶をしていますので、お茶をやったり、それから何をするような、そういう要求とか環境はございますかと聞いたときに、校長先生が、うちの学校はそういうことは全部、ボランティアとか何かが充実していますから、新たなものは必要ありませんとおっしゃっていたんですよ。ということは、その学校の環境は多分、ＰＴＡではなくてボランティアとコーディネーターみたいな、放課後子ども教室みたいなものが、私たちが知らないだけで結構管理されているのではないかなと感じたことがあります。

石田委員　　以前社会教育委員でいらした古家先生がそうおっしゃっていたんですね。だから結構私たちの知らない面でそういうところが整備されている学校は、東小だけではなくてあるのかなという気もしま

すので、そこをちょっと整理すると、私はこの体系づくりが、１、２、３、４、５、とてもいいと思うんです、この目的に向かって進めていく。ということをちょっと感じました。

小山田議長　　アンケートとかをとってみるかというところで、そこら辺どうしましょうかね。ＰＴＡの活動なのか地域の方も入っているのか。あと学生も結構入っているのではないかと思うんですね。

石田委員　　学生も入っているかもしれませんね。

小山田議長　　それかコーディネーターさんなのか。コーディネーターさんがいるというか、学校のほうのコーディネーターさんがやっているのかというようなこととか、その３つぐらいですけれども、これは学校のほうにもう一度詳細を伺いたいみたいな、Ａ４で１枚ぐらいのアンケートとかはとることは可能ですか。

小堀生涯学習係長　アンケート形式で確認するか直接確認するか、方法については検討させていただきますが、確認することはできると思います。

原田副議長　　先ほどの東小の報告の裏面の活動内容で、表になったものがありますよね。これを聞くだけでも様子がわかるような気がします、１年間どんなことを学校ボランティアでやっていますかと。アンケート形式だと、それぞれ質問の受け取り方が違ってしまって、答えがばらついてしまうかもしれない。

石田委員　　そうですね。この活動内容の表を借りて、その活動をしているのはボランティアですか、ＰＴＡですかと聞くだけでも、方向性と仕分けができるかなという気がしますね。
　校長会でアンケートをお願いするということは無理ですか。

小堀生涯学習係長　できるとは思いますが、アンケートでは、ニュアンスが違うふうに捉えられてしまうこともあるかもしれないので、直接聞いたほうがいいのかなと思いました。検討させてください。

小山田議長　　東小は活動としてあって、多分、一小とか緑中も、２５年度にモ

デル校をやっていたので、それが少し残っているのかなという感じはします。

石田委員　　そんな気がしますね、緑中は。

小山田議長　　そこはあるのかなと思うので、そういったことですね。じゃあ小堀さんから、どういう形で聞くのがいいかということで、もしこちらの社会教育委員のほうでアンケートみたいなものをつくったほうがよければ、またちょっと皆さんと相談してやりますし、この活動内容がＰＴＡなのか地域の人たちのボランティアなのか、学生さんなのかということですよね。あとは、コーディネーターさんがいて、それを取りまとめてもらってやっている活動なのかという、そこが知れればということですよね。

ちょっと一度、どういう方法がいいかを小堀さんのほうで検討していただいて、何か紙とかつくったほうがよければ、またつくるということで、活動状況のもう少し詳細なものを調べるというのを１つ宿題ということにしたいと思います。

先ほどの首藤さんのお話の方向性ということにはなるんですけれども、そのあたりは皆さん、ご意見としてはいかがでしょうか。

首藤委員　　小金井スタイルをつくるという議論があるんですが、これも漠然とした議論に近いと思うんです。小金井スタイルというのは地域との結びつきをもうちょっと強めていこうとするのか、あるいはそうじゃなくて、個別の学校対策として学習支援の強化の方向に進むのか考えて行く必要があります。また小金井スタイルとは地域の特性を考慮しそれを強く押し出すのか、個別対策自体をそのスタイルとするのかを考えることも重要だと思います。

原田副議長　　小金井らしい小金井スタイルというのは、やっぱり小金井の特徴をうまく生かすということになるのかなと思いますね。

首藤委員　　そうですね。

原田副議長　　いろいろ今までの視察とか、こういう資料なんかを見ると、結構やっているけどばらばらだというようなことをしていたと思った

んですね。

もう一つは、やっぱり学芸大学をはじめとする教育環境が整っていると、そこを使い切れていない。使っているかもしれないけれども、全体に広がっていないというかな、さっき城さんから不公平だという話があったけど、そういうような特徴を生かすという意味では、現状について「はじめに」のところで、こういうことをやっていて、こういうことはやっていないんじゃないんだというところから出発するのもいいのかなと思いました。

小山田議長　　そうですね、やってはいるので、そこを、どうメーンにするか。学校側としては、２５年度のときもやはり学力向上のための地域本部というようなことが最初言われていたような記憶をよみがえらせているんですけど、学校側はやはり、この確かな学力向上というのがメーンにはなるのかもしれないんですけど。

原田副議長　　ただ、あれですよね、地域学校協働活動の目的というのは学力向上ではなくて、子どもたちが、学校だけでなくて、地域の力もかりて人間的に成長するみたいな、もっと大きな成長を目指しているということなんじゃないかなと思うんですね。ですから東小は一生懸命やっているんだけれども、もし校長先生たちが、ここに書いてあることだけを考えているんだったら、ちょっと不十分な気がしますよね。

小山田議長　　今度、学習指導要領も変わっていって、さらに、学力だけではなくて、ほんとうにいろいろな、総合的な力を子どもたちにつけていくというのが出てくるので、やはりもう今は学力だけということではないことではなっているので、そういったところで小金井も、子どもたちみんなにさまざまな体験をさせる、いろいろな人との関係性が持てるというような、そういった環境を整えていくというところを書き込めればいいかなと。

原田副議長　　そういう意味では、熱心な校長先生がいるところとか、非常に力量のあるコーディネーターさんがいるところと、それぞれの個別の力量に任せていると、そういう理解が非常にばらついてしまうような気がするんですね。そういう意味では、我々の提言というのは、

そこを１回せきとめて、小金井としてのこの活動は、小金井全体でこういうことを目指すんですよみたいな、それは小金井に住んでいる子どもたちが公平にサービスを受けられるようにする、そのためには今までやっているこういうところを生かして、こういう方向性にしたらいいのではないかなみたいなことで、あとはちょっと行政、考えてちょうだいよと、こういうことなのかなと思うんですけどね。

小山田議長　　そうですね。ただ、やはり社会教育委員としては、地域というか、ほんとうに全体に公平な、子どもたちのそういう学ぶ環境を整えていってもらいたいという方向ということですね。個別の学校の、そこをさらに深めるというよりかは、それを平らに、全小学校でも同じような形でできるように、そういう組織的な制度というか、仕組みにのっとっていってもらうという方向ということですね。

という話に今なっておりますけれども、ご意見がありましたら、今日は自由に。

原田副議長　　もう一つは、これまでも何回か出てきたけど、人がかわったら終わってしまうんじゃなくて、持続可能なものにするために、どういう組織づくりが要るかということですね。

小山田議長　　キーワードが出てきていますね。ほかに何かいかがでしょう。

福井委員　　小委員会から、この取り組みに関して、都内小中学校でもう既に相当数、活動本部という格好で立ち上がって、小学校のみ、また中学校のみ、あと小中連携しながら、一貫校含めまして活動本部という格好で活動しているところがもう８０カ所ぐらいあるようなんです。小金井市は、まだ決定ではないんですけれど、当面小学校を中心に活動本部のメンバーとして活動しようということで話はしているんですが、この辺の取り組みを総合的に実施する。さっき、広報活動とかが非常に重要ではないかということなんですけれど、総合コーディネーターという、グループをまとめる方、立ち上げのところに関与する人も含めまして、協力を早目に、こういうことも周知していただくような方策をとっていただきたいと思うのと、あと今後、小金井スタイルということなんですけれど、言葉がかたいようなスタイルなんですけど、できるところからやっていこうとい

うところで、小学校中心に話を進めるということなんですが、現状、都区内の中で非常に活発的に活動をし始めているところが既にあることもありますから、その辺、我々自身、社会教育委員以外の方も視察に行くとか、そういう方法で周知、理解を徹底する方策も１つあるんじゃないかということで、研修という意味合いを兼ねまして、勉強会というような意味合いも含めまして、そういう実際に活動しているところの視察も、時間的にはスケジュール化したほうがいいのではないかと思います。

小山田議長　　城さん、お願いします。

城委員　　まず小学校からということですけれども、今やっていることでも全部の小学校に行き渡らせるというのが非常に難しいんじゃないかなと思うのと、個別のばらつきが今あるので、今現状のなさっていることを全部の小学校に、いいところだけを浸透させるというほうが、もっとやりやすいのではないかなと思うんですね。地域にボランティアの方を求めても、その地域はすごくボランティアの方たち、いい方たちがたくさん集まるかもしれないけど、そうでない地域もあるのではないかなと。全小学校の地域のことがわからないのであれなんですけれども、そういうのもあるのではないかなとちょっと考えます。

小山田議長　　地域によって、またちょっといろいろと、住民のばらつきだったり年齢層だったり、そういうのがいろいろあるかとは思います。

石田委員　　今の城さんの意見に乗ると、それこそ各学校にＣＣＳＳを組織的にできるような。貧困で塾にも行けない子どもたちって、隠れた子どもたちが結構いると思うんですよ。そして今、やっぱりゲーム依存症の子がすごく多くなっているように、こういうのが学芸大の組織として、ほんとうにもうちょっと大きくなって、小金井市に学芸大があるよという、そのメリットを各学校が受けられると、すごくいいなという気がするんです。

城委員　　せっかく小金井市なのに、何でそこだけというのを感じてしまったので。

小山田議長　　これはもう大学に話に行くしかないでしょうけど。

石田委員　　学芸大に行くしかないですね。

原田副議長　　品川区でもやっていると聞いたんですけど、どうしてかといったら、学生がそっちのほうに住んでいる子がいると。家から近いところでやっていると。

小山田議長　　その活動に参加できる学生というのも増やさないと、結局できなくなってしまって。学生も大変忙しく、なかなか、参加しても、じゃあこの日といっても行けるとか行けないとかなので、学生のほうの数も増やしてもらうようなことをしないと、多分、全校とかには行けないということころもあるのかなと思いますの。

石田委員　　そうですよね。学生を確保するには、ちょっと有償があると。例えば今、学芸大のアルバイトは１時間１，２００円なんですよ。一般レベルより高いんです。だけど、そんなに出す必要はないので、交通費くらいの有償になってもいいような予算化も考える必要があるのかなという気はしますね。

小山田議長　　今日はちょっと柴田委員がお休みなので、学芸大の状況とか、そういうのはまた今度、柴田委員がいらっしゃったときに伺えたらいいのかなとは思いますけれども。

原田副議長　　前に柴田先生に伺ったとき、可能性ですけれども、今はサークル活動でやっているから任意参加なんだけど、学芸大学には学習支援課程という、ちゃんと講座があるので、大学や大学院の授業の一環として、単位にすると。１年間４単位取るためには、この学校に半年通ってくださいということは可能であるというふうにおっしゃっていました。

小山田議長　　次回、柴田委員のお話をお伺いできたらと思います。
　ということで、こればかり話してあれなんですけど、とりあえず今日のご意見を伺って、また資料４の部分を膨らませたりいたしま

して、次回にもう一度検討していけたらと思います。それまでに資料３のさらに調査、詳細なところが伺えるかどうかということと、また、ほかにも何か皆さんから資料等がありましたらご提出とか、ご意見等があれば伺いたいと思いますので、それでは、こちらの議案はこれで、次に行きたいと思います。ありがとうございました。

では続きまして、議題でその他、ございますか。

長坂委員、どうぞ。

長坂委員　特に課長さんにお伺いしたいと思うんですが、ご承知のとおり、２０２０年から社会教育士という制度が導入されるということが報道されていますね。それにつきまして小金井市として、まず、どのような人を選ぶ予定なのか、それから、やはりこの委員会との関係はどうなのか。あるいは、いろいろ議題になっているコミュニティ・スクールとの関係とか、まさに今日議題になっている地域学校協働活動との関係とか、あるいは図書館とか公民館、全部包括することを政府は来年からやろうとしていますよね。それに対してどのような準備をされて、どういう心づもりでいらっしゃるか。

さもないと、今いろいろ議論していることもかなり変わってくると思うんですね。全然影響ないというんだったら、それはそれでいいわけですけれども、政府としては本気でそれをやってきていると思うんです。もう来年のことですからね、今やっていないということになると、来年できるわけないですよね。そういうことを含めて、この委員会そのものの価値というか存在という問題が当面も出てきます。今やっていることが全部無駄になるというか、非常に変わってきてしまう可能性もあるんです。

したがって、今、課長としてどういうふうな認識を持っていらっしゃるか、この機会にお話ししていただくとありがたいと思いますので、お答えをお願いします。

関生涯学習課長　今お話をお伺いしまして、それを踏まえての社会教育の方向性ということでご質問いただきました。今ご質問いただいたところなんですが、それに向けて教育委員会としてどうしていくんだというところは、ちょっと今、明確な答えというのは持ち合わせていないです。ただ、先ほどご議論いただきました地域学校協働本部につきましては、小金井らしさ、小金井のあり方、地域とのかかわり方とい

うのはどういった形で進めていくんだということの議論が今あったと思います。

質問のダイレクトな答えになっていないかもしれないですけれども、東小の例で、学校支援地域本部というのが今まで学校と地域との、学校に対しての一方的なつながりという形だったのかなというところで、今度のいわゆる地域学校協働本部につきましては、学校と地域の双方向のパートナーシップを結びつけていくんだという話が国からも示されているということがあります。それを踏まえて、現に小金井らしさというのもありますけれども、既に小金井、先ほど学芸大学の話もありましたが、小金井は学園都市でもございますので、そういった、ある意味、他市よりも恵まれていると言われる地域資源を使いながら、小金井らしい社会教育を目指していくべきだというふうには思っているところでございます。

ちょっとダイレクトな答えになっておらず、大変申しわけないのですけれども、今、そういった総括的な形で答えさせていただきたいと思います。今後アンテナを高くして、制度等いろいろ変わっていくかと思いますので、それに対応するような形で、先ほど学校教育とか、他の行政の内部の中での連携をという話があったかと思いますので、生涯学習部だけという話ではなく、行政内部の中でも連携をとりながら進めていく問題だと思っているところでございます。

以上です。

小山田議長　　ありがとうございました。よろしいですか。

長坂委員　　はい。ありがとうございました。という問題があるということを我々知った上で審議したり、その辺のことを考えながらやっていったほうが効率的というか、効果的だと思いますので、お互いに勉強していきたいなと思っていますので、ご協力いただければと思います。

小山田議長　　また何かわかったこと等ございましたら、会議の席ときにでもお願いいたします。

関生涯学習課長　はい。

石田委員　　今調べたところ、社会教育主事の講習において、その課程を修了した者に社会教育士という称号を与えると書いてありますので、主事の方が、その次の段階に行くということですよね。

関生涯学習課長　社会教育主事となると、いわゆる人員配置的な、人事的な側面もちょっとあるかと思いますので、そうなると生涯学習部だけのマターではなく、人事とも連携した話になってくるかなと思います。

小山田議長　　ありがとうございました。では、また引き続きいろいろ検討していきたいと思います。

では、報告事項に入らせていただきます。

まず、第４９回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会についてということで、これは福井さんからいただいておりますが、福井さんのほうで簡単にご説明をお願いいたします。

福井委員　　では福井のほうから、長野大会の報告をいたします。

平成３０年１１月１５、１６日、長野市で開催されました。大会のスローガンは「信州で　出会い・ふれあい・学びあい」というテーマです。全体会では９５０名の方が参加されましたけれど、過半数は長野県の方が参加されました。

基調講演として、佐藤一子先生から「人と地域が育つ社会教育の役割」ということで発表されました。内容としては、地域での学びの再認識、また個人の尊厳を尊重するということの関連性を含めました内容でした。

次に、パネルディスカッションということで、５名のパネラーの方が「連携協働による未来志向の社会教育のあり方を考える」という内容の報告で、学校と地域とが連携するキーワードは子どもであると、また防災ということも非常に重要なキーワードではないかということで、子どもを円の中心に置いて取り組むべきだというのが５名のパネラーの共通した発表内容でした。

次に、分科会でしたけれど、私は第３分科会に出席しました。テーマは「福祉教育と社会教育のあり方」というテーマでしたけれど、４９回目の研究大会において社会福祉というテーマを取り入れたのは初めてだということで、参加者の方も１００名近く参加しまし

た。内容的には、先ほど話している取り組みに近いような内容なんですけれども、学校と地域プラス社会福祉ということで、社会福祉協議会の３者が合同して、地域住民のための取り組みということの内容を説明されました。まとめとして、福祉という言葉はなかなか説明しにくいと思うんですけれど、今回のパネラーがまとめられた言葉としては、福祉とは「ふだんの暮らしの幸せ」という言葉につながるのではないかということで、非常に参考になるような内容を、研究大会に参加して聴講してきました。

以上です。

小山田議長　ありがとうございます。追加資料で、今、首藤さんの報告書をお配りいただいたと思うんですが、首藤さんほうにも、補足があればお願いいたします。

首藤委員　ちょっと私のほうは長々と書いていますので、お読みいただければというふうに思うんですが、分科会のところは福井さんと僕が分かれて参加していますので、少しだけ分科会の部分でお話しします と、幾つかの事例発表があったんですが、参考になるかなと思う部分があったので、その点をお話しします。

１つは事例ですが、千葉の鋸南町、ここでの話がありました。活動自体はいろいろなところでおやりになっているのとそんなに変わらないかもしれないですが、私が感じたのは、ここは社会教育主事、先ほど話に出ましたが、この方がいなかったんですね。それを、予算をとって、置いて、その方を中心に活動が非常に積極的に行われたと。やはり仕事として専門に、この方はどこかで教育を受けたというふうにおっしゃって、元保健体育の先生らしいですけど、その方が社会教育主事になられて、地域の全体を包括して方向性とか、いろいろな仕組みとかをつくられているというのは、なるほどなと、やっぱり専門の方を置くと随分変わっていくんだなというふうに思いました。

その中ですごく参考になったのは、やはりＩターンをしてくる人たちの中には、いろいろな特技、経験、知識を持った方がいらっしゃって、それをきちんと組織化されていて、何か必要なときにはそこから引き出しをつくって活用されていくと、自分たちが何かやりたいことがあると、そこから引き出しを出してきて、先生を選んで

きて、そこで務めていくという、そういうやり方です。それは１つ参考になるのではないのかなというふうに思いました。１つの成功事例かなというふうに思います。

それからもう一つの発表事例は、長野の松代町というところがあるんですが、ここは実はもともと観光地で、歴史のあるまちで、観光に関する行事というのをたくさんやっていたんですが、平成２８年に「真田丸」がテレビドラマ化して、ばっと盛り上がったわけです。それを活用して一挙に仕組みを強化して立ち上げたというふうなことをおっしゃっていました。いろいろな資産があるんだけど、やっぱりタイミングとかそういうものが必要で、そういうものをうまく活用すると、大きなまち全体のうねりをつくっていくことができるというふうな参考事例だったのかなと思います。

子どもたちに観光案内ガイドとか奉仕作業とか、そういうことをやってもらうようにして、地域との結びつき、地域愛を育てていくという大きなきっかけをつくれたということです。こういうタイミングってすごく大事だなと、タイミングと、そのときに集中していくということがすごく大事だなと思いました。

それから、発表事例３は、長野県の高山村の事例です。ここも、やられていることはわりと全国的にやられていることと、そう特色はないのかもしれないですが、ここは社会教育委員になった、発表された方なんですが、この方が強烈なリーダーシップでいろいろなものを組織化されていったと。「わくわく村」というものをつくって地域活性化策を実践されているんですが、実はやっぱり誰かが強いリーダーシップを持ってやっていかないと、なかなか動いていかないというか、みんなで相談してというやり方もあるんでしょうが、誰か１人突出した人が、私がやるぞといって、こういう活動をやりませんかというようなことを皆さんに話をしていって、そこから上がっていくという、そういうやはり強いリーダーシップを持った人というのがすごく重要だなというふうに思いました。

それぞれ３つの特色があったんですが、ファシリテーターの先生の話の中で印象に残ったのが、実は社会教育というのは学校外の活動から強めて、緩やかな連携を学校とつくっていくというやり方もあるんですよと、あるいはそっちのほうが重要かもしれないねと。学校から発生するんじゃなくて、外から何かをつくっていって、それを学校とつないでいく、こういうやり方が今の時代、重要ではな

いのではないのかなと。地域でどんな子どもたちを育てていくのかとかというコンセンサスを、やはりエリア全体できちんと共有していく。福井さんもおっしゃいましたけど、やはり地域全体でどういう子どもを育てていくのかということを、まずは決めていくと、そこから立ち上げていくというふうなことが重要かなというふうにファシリテーターさんは、小岩井先生ですが、おっしゃっていたというのが私としては印象に残ったかなと思います。以上です。

詳しくはいろいろ書いていますので、読んでいただければというふうに思います。

小山田議長　ありがとうございます。また参考にしていただけたらと思います。今ちょうど検討していることと非常にリンクする部分があるかと思いますので、ゆっくり読ませていただきたいと思います。

では、続きましての報告です。平成３０年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第５ブロック研修会についてということで、こちらは皆さん結構参加されたんですが、福井さんがまとめてくださっているので、また福井さんですが、簡単にご説明をお願いいたします。

福井委員　平成３０年１０月２７日に、府中市で開催されました。テーマは「人生１００年時代の学びと地域のつながり」というテーマでした。挨拶として、田中雅文さんが、社会教育は学びと地域、地域の住民のつながりを通してまちづくりに貢献するということで挨拶されました。

その後、府中囃子保存会の演舞というのもセレモニーで見学させていただいたんですけれど、伝統文化の継承ということで、府中市の小学生中心に１，５００名の方が会員登録されているということで、伝統文化を継承しているということに関しては非常に重要な位置づけで活動されているなと思いました。小金井市の小学生も、なかなか伝統文化というものに触れ合うチャンスが少ないと思いますけれど、できましたら、こういうお囃子以外にもいろいろ、小金井市にも伝統文化がありますから、継承していくことも必要ではないかと強く思いました。

次の講演会は、渡辺憲司さんが「人生百年時代　地域への学び『旅立ち』への視座」ということで講演されました。内容的には、社会

教育の考え方としては、弱者を受け入れる共生社会をつくることも人権教育の一環だということで講演されました。非常に社会教育の考え方も、イコール人権教育につながっているということを強調されたということです。

あと施設見学としては、府中市の市民活動センター「プラッツ」という、平成２９年７月に開館したばかりの非常にきれいな施設でした。内容的には、一般市民の方が無料で交流できるスペースがあり、また地下には防音設備の音楽練習室などがあり、今後、小金井市もこういう市施設をつくるときには参考になる施設だなと強く思いました。

以上です。

小山田議長　ありがとうございました。ほかに、皆さん行かれていますが、補足はよろしいですか。

では、続きましての報告で、平成３０年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会についてということで、これも、福井さんにまた書いていただいて。では福井さん、続けてよろしくお願いします。

福井委員　平成３０年１２月１５日、武蔵野市の武蔵野公会堂で開催されました。挨拶としまして、竹内光信東京都職員の方、内容的には、学校と地域の協働、あと社会教育と福祉教育との連携ということで、この連携に基づいて地域を発展させるというご挨拶と、次に馬場祐次朗理事が、地域コミュニティの役割は人とのつながり、地域のつながりを結びつけるということでご挨拶されたということです。

交流大会は、５ブロックの幹事の方が、お手元の資料のとおりご報告されたという内容でした。

次に研修会ということで、講演会、岩室紳也、この方はお医者さんの立場で社会教育ということを講演されました。講演内容としては、人と人をつなぐというのは居場所に参加することが重要であると、つながりがキーワードだということで、気仙沼の方言を交えながら、非常に身振り手振り、おもしろおかしく講演され、非常に理解しやすい有意義な講演だと思いました。

以上です。

小山田議長　　ありがとうございました。こちらも７名の方が参加されていますが、補足はございますか、大丈夫でしょうか。

いつも秋から冬にかけていろいろな研修会とかがすごく続くので、連続で報告をいただきましたが、ありがとうございました。どれも非常に、いろいろまだ私たちが知らないこともあって、学んでいかなくてはいけないというような内容だったのではないかと思います。

では、何かほかに報告事項はございますでしょうか。

関生涯学習課長　成人式の件で、ちょっと皆様に報告させていただきたいと思います。

１月１４日に成人式を挙行いたしました。社会教育委員の方にもご臨席いただきまして、どうもありがとうございました。また、城先生のお花もありがとうございました。

今年も２部制をとらせていただきまして、参加者につきましては全部で６８３名のご参加をいただきました。１部につきましては３３８名、２部につきましては３４５名で、合計６８３名のご参加をいただきました。今年につきましても大きな混乱等なく、無事に挙行させていただいたことを皆様にここでご報告させていただきたいと思います。

以上でございます。ありがとうございました。

石田委員　　成人式に関連して、いいですか。

ソロプチミストも着つけ直しに参加させていただいたんですが、今年はきれいに、きちんと着つけている子が多くて、着つけたのは全部で１０名くらいでした。

関生涯学習課長　ソロプチミストさんにもご協力いただきました。ありがとうございました。

小山田議長　　そのほか何か報告等、ございますでしょうか。

城委員　　済みません、その成人式のときなんですけれども、皆さん多分、着物を初めて着て、ショールも初めてだと思うんですけど、ショールというのは式が始まるときは取らないといけない。外套と一緒の

ものなんですね。皆さんご存じないので、受付の方がちょっと教えてあげたらいいのかなと。去年のときは石田さんが一生懸命言っていらしたし、あれだったので少なかったんですけど、今回、数えたら結構多かったので、これはやはりそのときに教えてあげるのが一番いいんじゃないかなと思いましたので、受け付けのときに。女の子も多分そのときしか着ていないのと思うので、そういうときに、ちょっとそういう身だしなみを教えてあげることも、成人式のときの大切なあれではないかなというのを今年感じましたので、何とかしてあげたほうがいいのかなと思いました。

以上です。

石田委員　　それはソロプチミストでも意見が出て、始まる前に司会の方に、お部屋の中に入りましたのでショールをお取りくださいと一言、言っていただくと、それがわかるのかなと。

菊池図書館長　　始まる前に、石田委員からショールのことは伺っていましたので、受付は３列あったので、それぞれに申し伝えたんですけれども、成人式を受けられる方は友人同士のグループで一斉に入ってこられますので。受け付けが始まってしまうと、そこまでのご案内が難しかったです。グループで受付を通さないと席が離れてしまうということがありますので、まず、はがきを持っているか、お仲間が離れ離れにならないかということに気を配るだけで結構精いっぱいで、ショールは取ってくださいというのがなかなかちょっと言えなくて、申しわけありませんでした。

城委員　　いえいえ。身だしなみまで教えていただくと、成人式に参加した意味も少しはあるのではないかなと、せっかく着物を着ていても、ショールが外套のあれだよということを皆さんご存じないので、これは必要じゃないかしらと、すごく思いました。

菊池図書館長　　最初の受付がまだ混んでいないときは、各受付で言っています。そうするとやはり皆さん、そうなんだという顔をされていて、わかりましたとおっしゃっていましたね。

城委員　　済みません、余計なことなんですけど、すごく気になったので。

福井委員　　あと、今の話で、幕が上がって開会式のスタートのときに、司会者が当然、自己紹介等をされるときに、注意事項を申し上げますということで、携帯をお切りくださいぐらいのアドバイスと、あと飲食禁止ですよというところのご紹介のときに、マナーとしてこういうこともありますからご協力くださいということも。そういうテクニックも、使い方によっては周知できる方策としてはあると思いますから、そういうことも来年以降、考慮されてやるといいんじゃないかと。

小山田議長　　では、来年度の成人式のときに、何かまたご検討いただければということで。

関生涯学習課長　貴重な意見、どうもありがとうございました。

小山田議長　　ありがとうございました。

福井委員　　あと１点、今後のスケジュール的に、カレンダー上ではずっと９月まで委員という職責になっていますから、今期の３月で切らないで、今後の４月、５月、６月の日程的なスケジュール表、簡単なメモ的な内容で、もう既に決まっている日程もあると思いますから、その辺を踏まえて次回のときにご提示いただければと思います。

小山田議長　　今年度の本委員会のほうは３月で、今年度は最後です。
　以上になりますが、そのほか何かよろしいでしょうか。言い残したことがある方は。大丈夫でしょうか。

原田副議長　　新年度４月から何回あるんでしたっけ、我々の任期中は。

小堀生涯学習係長　４月、５月、７月、８月が予定されていて任期中は４回となります。

原田副議長　　じゃあ、まだ提言については十分時間があると考えていいですね。

石田委員　　済みません、４月２０日に都の連合総会がありますよね。

小堀生涯学習係長　４月２０日の土曜日、都市社連協定期総会があります。午後、武蔵野公会堂で予定されています。

石田委員　はい。午後ですね。

小山田議長　では、日程のほうはまたわかり次第ということで、お願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして第７回の社会教育委員の会議は終了とさせていただきます。お疲れさまでした。